

循環器専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 静岡県立総合病院 循環器病内科部長 坂本裕樹

地域医療再生という言葉聞いたことがあると思います。地域における医師不足は深刻です。静岡県中部に於いても例外ではありません。医師不足のために循環器内科を閉鎖した、または閉鎖寸前の病院があります。

そこで中部の静岡県立総合病院、静岡市立静岡病院、市立島田市民病院、藤枝市立総合病院の循環器内科の部長が集まり協力して、地域医療を再生するため、研修医の皆さんが本県に来ていただけるように魅力のある循環器専門医研修プログラムを作成しようと議論しました。



これら4病院は地域医療の中核病院として、スタッフ一同あらゆる種類の循環器疾患の診療に日夜取り組んでいます。4病院を研修することにより、心臓超音波検査、冠動脈CT、心臓MRI、心筋シンチ等の非侵襲的検査、冠動脈インターベンション、カテーテルアブレーション、ペースメーカー治療等の侵襲的治療、さらには経カテーテル大動脈弁置換術等の最先端の治療にいたるまで経験することができます。研修医の皆さんには各病院をローテーションしながら色々な経験を積んで循環器医師として向上していただきたいと思います。更に指導医と研修医が相互啓発する中で地域の循環器診療のレベルアップにつながれば望外の喜びです。各病院の医師は協力して情熱を持って若人を育てたいと思っています。

これを実現すべく以下のようなローテーションを組みました。後期研修の前半3年間を静岡県立総合病院と静岡市立静岡病院で各々1.5年のローテーションで研修し、後半の1年ないし2年を市立島田市民病院と藤枝市立総合病院へローテーションで研修し、循環器専門医申請資格の取得を目指していただきます。

最後に静岡県の医学修学研修資金を貸与された方が返還免除を受けるためには、貸与期間の1.5倍の期間、県の指定した公的病院等で勤務しなければなりません。しかしながら初期研修修了後の5年間は専門性や総合性を追及することが必須であり、それが静岡の地域医療のレベルの向上になると考えています。4病院の循環器科スタッフ一同、貸与された方を県内で大切に育てていく義務を感じています。これがこの研修システムを立ち上げる契機となりました。勿論、貸与されていない方も大歓迎です。

興味をもたれた方は気軽にコンタクトをとっていただければ幸いです。

2 プログラムの管理

本プログラムの管理は、プログラム運営委員会が行う。

プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）



◎坂本 裕樹（静岡県立総合病院）

日本循環器学会専門医

日本心血管インターベンション治療学会専門医

日本内科学会認定医

本プログラムに参加している4病院で、静岡県中部の医療全体を担っていると言っても過言ではありません。このプログラムに参加することにより、様々な循環器疾患の診断、治療を学べることができ、未来を担う循環器専門医のトレーニングの場として最適であると考えます。



小野寺 知哉（静岡市立静岡病院）

日本循環器学会専門医

日本心血管カテーテル治療学会認定医・専門医・指導医

日本内科学会内科認定医・総合内科専門医

循環器を志望される先生に十分な研修機会を提供できる病院が集まったプログラムです。臨床では実際に行われていることを複数の病院で経験することが自分の能力を高めることになると考えています。我々と一緒に成長していきましょう。



青山 武（市立島田市民病院）

日本循環器学会専門医

日本内科学会内科認定医・指導医

循環器内科は内科系の専門領域の中では日常臨床を一人で出来るようになるまでに習得すべき手技や経験すべき症例数が多く必要とされます。従って、指導が十分に受けられる病院で研修すべきと思います。当プログラムの4病院は症例数も多く、指導医も豊富であり、いくつかの病院で診療経験を積むことによりバランスの取れた循環器専門医になれると確信しています。

市立島田市民病院には島田市内のみならず、近隣の市町村からも循環器救急患者が搬送されており、待機的な症例はもとより、救急患者を多く受け持つことが出来、救急に対する自信が早く得られると思います。

多く研修希望者が当プログラムに参加されることを期待します。



渡邊 明規（藤枝市立総合病院）

日本循環器学会専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医

日本内科学会内科認定医・総合内科専門医・指導医

現在社会はあらゆる分野で新しい状況が展開しており、留まるところを知らない。

医療・医学の領域でも同様に進歩は著しい。現在、循環器病領域でも人工心臓や再生医学は既に実用化の段階に来ています。一方、現在の日本では超高齢化社会を迎え、病院では高齢心不全の患者が多く入院してきている現実があります。医療の進歩は人類を幸福に導かなければなりませんし、医学を志した方々の原点はここにあると推測いたします。このような観点から循環器科を志し、市中病院で研修することで医師としての土台を築くことは極めて意義深いと確信しています。

3 研修カリキュラム

日本循環器学会の『循環器専門医研修カリキュラム』に準じます。

研修評価は『循環器専門医研修カリキュラム達成度評価表』によります。

※日本循環器学会 <http://www.j-circ.or.jp/index.htm>

4 各病院の特色

静岡県立総合病院

当院は平成20年に循環器病センターを開設した。心臓血管外科と協力し、日々、循環器疾患に対し質の高い診療を提供している。

- ・ 循環器疾患の急性期疾患（急性冠症候群、急性大動脈解離、急性心不全など）の診断・治療を24時間体制で取り組んでいる。
- ・ 心臓超音波検査、320列MDCT、心臓MRI、心臓各医学検査（SPECT、PET）などの専門的検査を駆使し的確な診断を行い、エビデンスに基づいた質の高い内科的治療を行っている。
- ・ 侵襲的治療においては、PCIはもちろんのこと不整脈に対するアブレーション治療、重症心不全に対する心臓再同期療法（CRT-D）などの最先端治療も数多く行っている。
- ・ 心臓血管外科とハートチームを形成し、エビデンスに基づき、患者様にとって最適の治療を選択するよう心がけている。当院心臓血管外科は2013年より体制を新たにし、冠動脈バイパス術、弁膜症、心筋症に対する手術、大動脈解離や真動脈瘤への手術、さらに胸部腹部大動脈瘤のステント内挿術などで良好な成績をあげている。今後は協力して経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）も行っていく予定である。
- ・ 医学的エビデンスの構築のために、多施設共同研究にも積極的に参加している。

静岡市立静岡病院

「循環器疾患の症例数が豊富にあり、他病院からの紹介患者も多く、典型的な症例はもちろん、まれな症例も経験できる。また、東海地方で最も強力な心臓血管外科を有しており、豊富な循環器疾患の外科症例も見ることができる。また、心臓外科の成績が安定しており、標準的な手術の適応、PCIの適応を患者に行っている。心臓カテーテル症例のデータベース、病診連携患者レジストリのデータベースがあり、これを用いた診療アウトカムの評価を行っている。循環器研修中、これらのデータベースを基にした研究を行う。」

市立島田市民病院

「循環器疾患に対して、高度な専門的検査、治療を行っている。24時間緊急対応には万全を期しており、いつでも治療や入院の受け入れができる体制をとっている。島田市内に入院可能な施設は当院だけであり、バイアスのかからないありのままの医療を体験できる。」

藤枝市立総合病院

「藤枝市及び近隣住民における地域医療の基幹病院である。総合病院ゆえ、各内科系の専門科さらには外科系との連携が比較的容易な体制がある。当院の循環器科は、慢性疾患から急性心筋梗塞に代表される救急疾患が対象となり、幅広い医療を提供する施設と考えています。さらに、現在の日本における高齢化社会を考慮すると本当の循環器専門医はまずは幅広い知識・技術を備えた「内科医」でもあるべきと考えている。」

5 研修スケジュール

- (1) プログラムにおける研修・勤務期間は原則5年間とする。
- (2) 初めの3年間は静岡県立総合病院及び静岡市立静岡病院でそれぞれ1年半ずつ研修し幅広い症例を経験することで多方面に渡る循環器疾患の基礎を学ぶ。
- (3) 後の2年間は島田市民病院あるいは藤枝市立総合病院で研修し多くの症例を経験することで循環器疾患を安心して診ることのできる医師に成長する。
- (4) 5年目に日本循環器学会専門医試験を受け、専門医の資格を取得する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	静岡県立総合病院(虚血性心疾患、不整脈、心不全などを総合的に診断治療)											
	静岡市立静岡病院(狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈と、あらゆる心臓の病気を治療)											
2年目	静岡県立総合病院						静岡市立静岡病院					
	静岡市立静岡病院						静岡県立総合病院					
3年目	静岡市立静岡病院											
	静岡県立総合病院											
4年目	市立島田市民病院 or 藤枝市立総合病院(慢性疾患から急性疾患まで多くの症例を経験)											
	市立島田市民病院 or 藤枝市立総合病院 ◎循環器専門医資格認定試験											
5年目	市立島田市民病院 or 藤枝市立総合病院 ◎循環器専門医資格認定試験											
	市立島田市民病院 or 藤枝市立総合病院 ◎循環器専門医資格認定試験											

提供される教育機会

- ・ 症例検討会 (病理・画像カンファを含みます。)
- ・ 抄読会もしくはセミナー
- ・ 日本循環器科学会提供の教育プログラム参加
- ・ 日本循環器科関連学会 (単位認定学術集会) 参加 (年3回程度の発表を目標とします。)
- ・ 海外短期留学 (スタンフォード大学、コロンビア大学等への短期留学)、倉敷中央病院、豊橋ハートセンター等への派遣研修

- ・研修病院合同の症例検討会、カンファレンス等の定期的な勉強会（年2回程度、本プログラム参加医師が一同に集まります。）
- ・動物を用いた実践的なトレーニング

6 研修指導

各病院に在籍する（一社）日本循環器学会専門医が直接指導します。
詳細については各病院のページに記載がありますのでご参照ください。

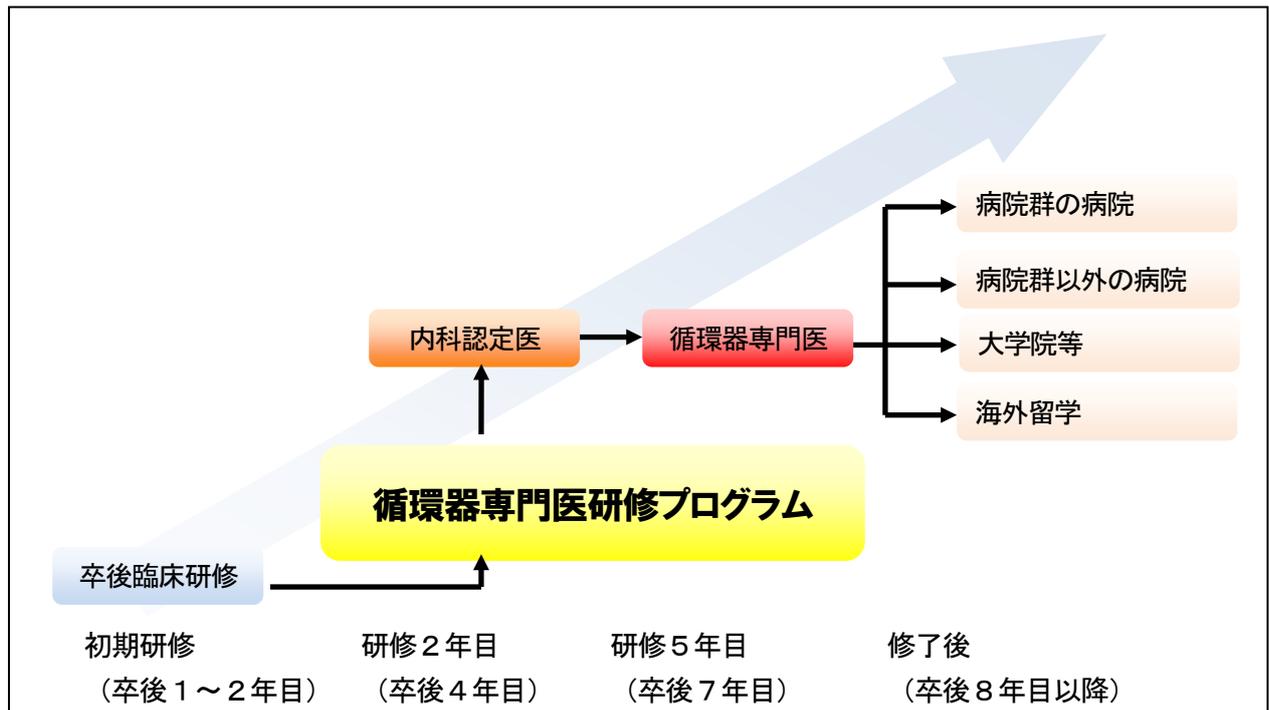
7 取得可能資格

- （1）日本内科学会内科認定医（研修2年目で取得）
- （2）日本循環器学会循環器専門医（研修5年目で取得）
- （3）一部の研修期間は日本心血管インターベンション治療学会の認定期間としても認定される。

8 研修修了後

- （1）病院群の病院への就職
欠員があれば優先的に常勤医師として就職可
- （2）病院群以外の病院への就職
病院・医師のネットワークにて常勤医師として紹介可
- （3）大学院等への進学
※大学院へ進学を希望される静岡県医学修学研修資金貸与者については、事務局へご相談ください。
- （4）海外留学

プログラム参加者のキャリアプラン



9 プログラム参加の要件

- (1) 初期研修を修了していること
- (2) 内科認定医、循環器専門医を取得する意思があること
- (3) 本プログラムに賛同し、熱意を持って参加できる者であること

10 募集人員

毎年度4名程度

11 採用

書類審査及びプログラム運営委員による面接を行い決定。

12 処遇

プログラム上は当該コース（制度）に属しますが、処遇は研修を受けるそれぞれの病院に準じます。詳細については各病院のページに記載がありますのでご参照ください。

参 考 研修病院概要

静岡県立総合病院

当院は病床数720を有する総合病院であり、静岡県の中核的医療施設として救急医療（365日対応）および先進的医療に取り組むとともに臨床研究施設としての役割も果たしております。

平成20年に循環器病センターを開設しました。心臓血管外科とハートチームを形成し、患者様にとって最適の治療を選択するよう心がけています。



1. 処遇（卒後3年目）

身 分	有期雇用職員			
給 与	基本給/月	4月～12月 235,400円	賞与/年	753,900円
		1月～3月 244,100円		
	諸手当/月額	地域手当（基本給の15%）、臨床業務手当（41,120円）、初任給調整手当（216,000円）、宿日直手当（20,000円/回）、通勤手当、住居手当、時間外勤務手当等		
	年間基準支給額	7,117,900円		
福利厚生	定期健康診断、結婚・出産・病気見舞金など各種給付制度あり さらに宿泊・保健施設の利用助成もあり			
医療賠償責任保険加入状況	あり			
休 暇 等	当院の規程による			
医師公舎	単身用・世帯用がありますのでご相談ください。			

2. 目標・研修内容

非侵襲的な検査や侵襲的な検査、治療に日常的に関わり理解を深めていくようにしていただきます。演繹的な思考力を徹底的に養い、患者の状態に即した必要な諸検査を駆使し総合的に診断、治療できる循環器臨床専門医の育成を目標としています。

1年次前半	心エコー図に習熟し、急性期の患者の対応ができるようになる。
1年次後半	冠動脈造影検査が一人でできるようになる。PCI、EPSに参加する。専門学会での症例報告を行う。
2年次前半	初回診断冠動脈造影やEPSができるようになる。PCI、アブレーションに参加する。永久ペースメーカーの植え込みができるようになる。臨床研究を開始する。
2年次後半	簡単なPCI、アブレーションを指導の元に行うことができる。
3年次以降	PCI、アブレーションの術者となる。

すべての期間を通じ非侵襲的検査（心エコー図、心臓核医学検査（SPECT PET）、MDCTなど）に関わり体得し理解を深化させていく。

3. 教育体制

<研修責任者>

坂本 裕樹 (主任医長)

日本循環器学会専門医

日本心血管インターベンション治療学会専門医

日本内科学会認定医

吉田 裕 (医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本核医学会認定医

森脇秀明 (医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医

本岡真琴 (医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会専門医・認定医

藤田真也 (医長)

日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医

日本内科学会認定医

竹内泰代 (医長)

日本循環器学会専門医。日本内科学会専門医・認定医

松前宏信 (医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医

阪田純司 (医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医

多田朋弥 (副医長)

日本内科学会認定医



4. 症例実績

2014年実績

症 例	件 数
冠動脈造影	950
冠動脈インターベンション	473
ペースメーカー植え込み術	44
心エコー	9,161
心筋シンチ	820
心臓MR I	84
冠動脈C T	720
アブレーション	53

5. その他

テニス、野球、バスケットボール、サッカー、バレー、卓球、バドミントン部等があります。



静岡市立静岡病院

当院は循環器疾患の幅広い症例を経験し、患者にとって最善と考える治療を提示できる能力を養うことを目的としています。

心臓病治療の静岡での中心として、狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈と、あらゆる心臓の病気を治療しています。充実した設備とスタッフをそろえており、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）、ロータブレーター、冠動脈レーザー治療、頻脈性の不整脈に対するカテーテルアブレーション、両心室ペースメーカー（CRT-D）などの先進的な医療も積極的に行っています。

また、循環器内科医がCCU当直医として365日院内にいます。これが、時間外の循環器救急患者、病棟患者の診療を行っています。循環器内科在宅直医もおいており、必要時当直医の補助をします。また、心臓血管外科もICU当直医として時間外の心臓外科疾患に対応しています。

このため、夜間も患者にとって安全な体制となっており、主治医、担当医の夜間の負担も軽くなっています。



1. 処遇（卒後3年目）

身分	地方公務員（非常勤）			
給与	基本給/月	258,000円	賞与/年	766,969円
	諸手当/月額	時間外手当（完全支給） 宿日直手当（1回 20,000） 地域手当（38,700円） 初任給調整手当（229,500円） 扶養手当 通勤手当 住宅手当（50,000円～80,000円の民間住宅を病院借上げ）など		
	年間基準支給額	7,361,754円		
福利厚生	市町村職員共済組合もしくは厚生年金、雇用保険、労災保険及び健康保険加入、定期健康診断、結婚・出産、病気見舞金など各種給付制度あり			
医療賠償責任保険加入状況	あり			
休暇等	有給休暇日20日、夏季休暇6日程度			
医師公舎	単身用・世帯用がありますのでご相談ください。			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回公費で学会出張できる。また、発表者になると学会出張費は公費で出る。 ・学会、セミナーは治験公費でできるだけ多く出席させるようにしている。スタッフが多いため代診医をたのみやすい。 ・時間外手当に上限はないが、出来るだけ時間外を少なくするように努力している。 ・CCU当直、内科2次救急当番日の当直を合わせ、月に5回程度の当直がある。 ・当直翌日はできれば、午後休としている。 			

2. 目標・研修内容

<目標>

- （1）循環器医としての十分なスキルを持ち、循環器専門医を取得する。
- （2）日本心臓血管インターベンション治療学会認定医も取得する。
- （3）臨床研究、症例報告を多く行う。

<研修期間>

- ・ 卒後3年で内科認定医の資格をとる。
- ・ 3年目で十分な他の内科の疾患を経験していない場合は他の内科のローテーションも行うことができる。
- ・ 循環器専門医は3年間研修施設での研修が必要である。当院は研修施設となっている。
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会認定医の資格には研修施設あるいは研修関連施設に所属し、200例以上の心血管カテーテル治療の経験が求められる。
- ・ 当院は日本心血管インターベンション治療学会研修施設であり、カテーテル治療の症例数も多く認定医を取りやすい。

<研修内容>

- (1) 卒後3年目までは担当医として、主治医である上級医とともに患者の診療を行う。
卒後4年目からは主治医として患者を受け持つ。
症例は毎日科長が病棟を回診し、チェックをしている。主治医、担当医は週2回のカンファレンスで報告を行う。
- (2) 卒後3年目より心カテを上級医とともに行う。
4年目には自身で若い医師を指導して心カテを行えるようにする。心カテの所見、患者データを把握し、自分で検査内容を考えることができるようにする。
- (3) PTA 上級医の指導のもとに卒後4年目から行う。
- (4) PCI 卒後5年目から術者としてのトレーニングを上級医の指導のもとに行う。当院は年間500例のPCIを行っており、症例数は十分にある。
- (5) カテーテルアブレーションは卒後4年目から参加する。
- (6) CCU当直医として夜間、休日の循環器救急患者、病棟入院患者の診療にあたる。
- (7) 当院は循環器疾患の症例数が豊富にあり、紹介患者も多く、典型的な症例はもちろん、まれな症例も経験できる。
- (8) 当院は東海地方で最も強力な心臓血管外科を有しており、豊富な外科症例も見ることができる。
- (9) 心臓外科の成績が安定しており、標準的な手術の適応、PCIの適応を患者に行っている。
- (10) 心臓血管外科との合同カンファレンスを毎週行っている。当科から心臓血管外科に依頼する患者、相談する患者の他に、他院から心臓血管外科に紹介され、手術を考える患者もプレゼンテーションされる。また、当科で行うPCI、PTA例もプレゼンテーションする。このため各種の疾患を見ることができ、治療方針の検討の研修にもなる。
- (11) 当院は症例数が多く、心臓カテーテル症例のデータベース、病診連携患者レジストリのデータベースなどがあり、これを用いて診療アウトカムの評価を行っている。本研修中、これらのデータベースを基にした研究を行うことも求められる。
- (12) まれな症例もしばしば経験するため、この症例報告も行う。
- (13) 週2回の抄読会を行っている。この担当も順番に行う。

3. 教育体制

<研修責任者>

小野寺知哉（診療部長）

日本循環器学会専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医



村田耕一郎（循環器科科長）

日本循環器学会専門医、日本心血管カテーテル治療学会認定医・専門医

日本内科学会総合内科専門医

縄田隆三（心臓リハビリテーション科科長）

日本循環器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医

循環器内科6年以上のスタッフ：8名

卒後3－5年の後期研修医：5名

他に卒後1、2年の初期研修医がローテーターとして常時数名いる。

循環器専門医：7名

日本心血管インターベンション治療学会専門医：2名

4. 症例実績

2013年実績

症 例	件 数
冠動脈造影	1,459
冠動脈インターベンション	504
ペースメーカー植え込み術	148
心エコー	10,587
心筋シンチ	1,658
心臓MRI	304
冠動脈CT	492
アブレーション	93

市立島田市民病院

当院は日本循環器学会の認定施設であり、専門医7名を含む10名の常勤医が循環器疾患に対して、高度な専門的検査、治療を行っています。

循環器内科の疾患は急性心筋梗塞や急性心不全などのように突然発症し、なおかつ生命に関わることが多く、早期の診断と治療が必要です。当院の循環器科では24時間緊急対応には万全を期しており、いつでも治療や入院の受け入れができる体制をとっています。

島田市内に入院可能な施設は当院だけであり、バイアスのかからないありのままの医療を体験できます。



1. 処遇（卒後6年目）

身分	地方公務員	
給与	基本給/月	371,600円
	賞与/年	約1,000,000円（4月採用時）
	諸手当/月額	医務手当260,100円、地域手当37,160円、 診療手当100,000円(概算)、宿日直手当35,000/回 その他（時間外手当、住宅手当、通勤手当、扶養手当など）
	年間基準支給額	10,000,000～12,000,000円
福利厚生	人間ドック受診料助成、共済組合の制度利用可能	
医療賠償責任保険加入状況	あり	
休暇等	20日/年、5日（夏期休暇）	
医師公舎	単身用・世帯用がありますのでご相談ください。	

2. 研修内容

心エコー、負荷心筋シンチ、負荷心臓MRI検査、心臓CTなどの検査件数も多く、心疾患の病態を把握するトレーニングが十分にできる。

CTはGE社製の最新機器を2010年9月に導入し、より鮮明な画像が得られるようになった。

3. 教育体制

<研修責任者>

青山 武 (副院長・循環器内科部長)

日本循環器学会専門医

日本内科学会内科認定医・指導医



谷尾仁志 (部長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会内科認定医・指導医

近藤真言 (顧問)

日本循環器学会専門医、日本内科学会内科認定医・指導医、日本核医学会専門医

松岡良太 (医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本救急医学会専門医

川人充知 (医長)

日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医

日本内科学会認定医、日本核医学会専門医

金森範夫 (医長)

日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医

日本内科学会認定医

石田仁志 (医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医

蔦野陽一 (副医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会専門医

4. 症例実績

2013年実績

症 例	件 数
冠動脈造影	445
冠動脈インターベンション	210
ペースメーカー植え込み術	43
心エコー	7,530
心筋シンチ	492
心臓MRI	142
冠動脈CT	321
アブレーション	8

藤枝市立総合病院

藤枝市立総合病院は藤枝市及び近隣住民における地域医療の基幹病院です。よって、当院の循環器科は、慢性疾患から急性心筋梗塞に代表される救急疾患が対象となり、幅広い医療を提供する施設と考えています。総合病院ゆえ、各内科系の専門科さらには外科系との連携が比較的容易な体制があります。さらに、現在の日本における高齢化社会を考慮すると本当の循環器専門医はまずは幅広い知識・技術を備えた「内科医」でもあるべきと考えています。



1. 処遇（卒後3年目）

身 分	医員（藤枝市常勤正規職員）			
給 与	基本給/月	365,900円	賞与/年（4月採用）	1,165,572円
	諸手当/月額	地域手当（15%）、医務手当（190,000円） 宿日直手当（35,000円/回）、住居・扶養・通勤手当		
	年間基準支給額	8,494,992円		
福利厚生	定期健康診断、余暇の有効活用の助成や結婚・出産・病気見舞金など各種給付制度あり。宿泊・保健施設の利用助成あり。			
医療賠償責任保険加入状況	あり			
休 暇 等	有給休暇、夏季休暇、リフレッシュ休暇などの規定あり			
医師公舎	単身用・世帯用がありますのでご相談ください。			

2. 目標・研修内容

<目標>

- （1）研修の初期においては循環器疾患の病態・診断・治療についての基本を習得すること。さらに、その他内科系疾患に関しても診断・検査・治療に関する知識と基本的な技術を幅広く習得すること。
- （2）循環器科で扱う慢性疾患（慢性心不全、虚血性心疾患、高血圧症、高脂血症など）に対するケアや患者個々の病態の把握やEBMの知識などに基づいた薬物治療ができること。
さらに、非侵襲的検査法の基本原理を理解し、特に心エコー・運動負荷試験・Holter心電図は自分で検査を実施し、評価ができるようになること。
- （3）急性心筋梗塞・急性心不全・致死性不整脈などの救急疾患に対する対応や心臓カテーテルなどの侵襲的検査・治療ができるようになること。
- （4）さらに取得可能な認定医・専門医を目指すこと。
当院では循環器関係として、内科認定医・総合内科専門医、循環器専門医などがあります。

<研修内容>

- （1）定期的なカンファレンスは当然行っていますが、基本的には主治医制としています。心臓カテーテルなどの侵襲的検査・治療は必ずチームで担当いたします。
- （2）慢性疾患から急性心筋梗塞に代表される救急疾患が対象です。
- （3）当院は心臓血管外科を有していますので、循環器疾患を内科・外科の総合的な治療が選択できる体制になっています。特に急性大動脈解離などの緊急手術にも対応が可能です。

3. 教育体制

<研修責任者>

渡辺明規（第一診療部長）

日本内科学会：内科認定医・総合内科専門医・指導医

日本循環器学会：循環器専門医

日本心血管インターベンション治療学会：認定医



内藤昭貴（第二科長）

日本内科学会内科認定医、総合内科専門医・指導医、日本循環器学会循環器専門医

日本心血管インターベンション治療学会：認定医

日本医師会産業医

阿部 信（第一科長）

日本内科学会内科認定医、日本循環器学会循環器専門医

4. 症例実績

2013年実績

症 例	件 数
冠動脈造影	355
冠動脈インターベンション	142
ペースメーカー植え込み術	63
心エコー	7,650
心筋シンチ	575
心臓MR I	14
冠動脈C T	104
アブレーション	1

心不全を有する肺炎など一般内科的な入院も多く認めていますが、これも地域の循環器科のひとつの特徴です。

5. その他

(1) 医療機器に関しては循環器科を標榜するには十分あります。

⇒心カテー式（フィリップス社製）

シンチ CT（東芝製：320列） など

(2) 医師会との循環器症例検討会：1回/月。

特別講演も含む「病院学術カンファレンス」：1回/月。

病院間の症例検討会など、その他多数あります。

(3) 病院互助会が助成しているサークル活動（サッカー部、マラソン部、バドミントン部、ゴルフ同好会など）もあります。